

2022年3月期  
決算説明資料

---

2022年5月12日  
東邦金属株式会社

証券コード: 5781

TOHO KINZOKU CO.,LTD

 会社概要



会社名  
東邦金属株式会社

代表取締役社長  
小樋 誠二

創立  
1950年2月3日

本社  
大阪市中央区備後町二丁目4番9号  
日本精化ビル2階

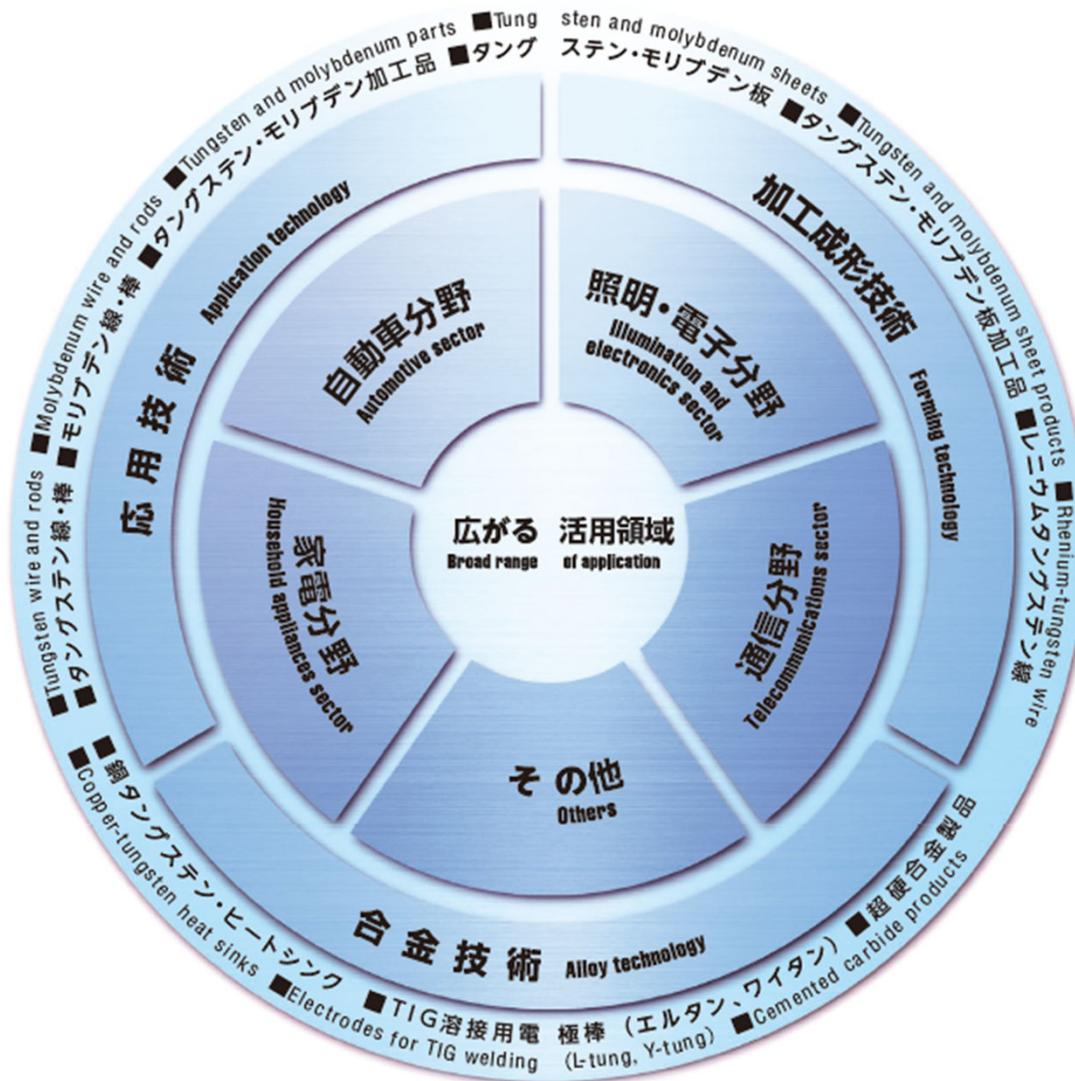
事業所  
東京支店(東京都港区)  
門司工場(福岡県北九州市)  
寝屋川工場(大阪府寝屋川市)

株式  
東証スタンダード市場

💡 事業領域



タングステンは、究極の金属のひとつで、最高の融点と最低の蒸気圧をあわせ持ちます。さらに、高温強度、純金属中最低の熱膨張係数、優れた熱伝導度、電気伝導度を有しているため、フィラメント、放電電極、半導体部品、電気接点、X線発生用ターゲット、高温雰囲気炉用発熱材、放射線遮蔽材といった用途に広く使用されています。



モリブデンは、良好な加工性、高温強度、低熱膨張係数、優れた熱伝導度、電気伝導度を有しているため、マグネトロン用部品、半導体部品、焼結トレイや高温雰囲気炉用発熱材に広く使用されています。



## 事業内容



1. タングステン、モリブデンおよび高融点金属製品の製造販売

2. タングステン合金、モリブデン合金および電気接点の製造販売

3. 鉾山都市土木用工具および超硬合金製品の製造販売

4. 前各号の製品製造機械設備の設計、製作、およびその販売



# 決算概要 — 損益計算書 —

(単位:百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	対前年比 増減額(増減率)	増減要因
売上高	4,173	6,400	2,227 (53.4%)	・貴金属電極の材料の高騰 ・タングステン・モリブデン製品が好調を推移
売上総利益	622	1,215	593 (95.4%)	・歩留、稼働率改善等による売り上げ原価率の改善
販管費	494	530	36 (7.2%)	
営業利益	127	685	557 (435.8%)	
営業外収益	81	49	△32 (△39.8)	・雇用調整助成金等
営業外費用	25	27	1 (6.2%)	
経常利益	184	707	523 (284.3%)	
特別損益・税金等	34	105	71 (208.8%)	
当期純利益	149	601	453 (302.7%)	

## 💡 決算概要 — 売上高 —

●売上高は、貴金属電極の材料が高騰したことを受け、その連動により販売価格が大幅に上昇したことに加え、タングステン・モリブデン製品が暫く需要低迷期を脱し、好調に推移したことにより、6,400百万円と前年同期比53.4%の大幅な増収となった。

### タングステン・モリブデン製品

半導体、自動車関連での需要回復により、好調に推移し、前期比395百万円(32.3%)の増収となった。

### 焼成品

自動車用電極部品を主力製品とする貴金属電極の材料が半導体製造装置部品での需要増や、環境関連での注目の材料としての思惑等から高騰したことを受け、その連動による販売価格が大幅に上昇したことにより、前期比1,807百万円(71.3%)と大幅な増収となった。

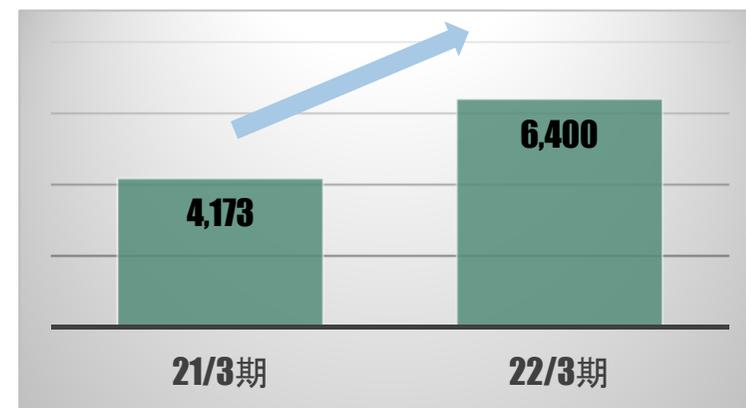
### 超硬合金

新型コロナウイルス感染症の拡大により停滞していたトンネル工事等が回復し、前期比25百万円(6.1%)の増収となった。

(単位:百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	対前年比 増減額(増減率)
売上高	4,173	6,400	2,227(53.4%)
タングステン・モリブデン	1,221	1,616	395(32.3%)
焼成品	2,534	4,341	1,807(71.3%)
超硬合金	417	442	25(6.1%)

(単位:百万円)





# 決算概要

## — 貸借対照表 —

(単位:百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	対前年比 増減額	増減要因
<b>流動資産</b>	<b>3,350</b>	<b>3,581</b>	<b>230</b>	
現金及び預金	599	493	△106	
その他	2,750	3,087	337	仕掛品(+260)
<b>固定資産</b>	<b>2,109</b>	<b>2,219</b>	<b>109</b>	
有形、無形固定資産	1,416	1,412	△4	
投資その他の資産	692	806	113	投資有価証券(+129)
<b>資産合計</b>	<b>5,460</b>	<b>5,800</b>	<b>340</b>	
流動負債	2,124	1,683	△440	短期借入金(△610)、電子記録債務(+103)
固定負債	1,037	1,127	90	繰延税金負債(+30)、長期借入金(+30)、退職給付引当金(+19) 役員退職慰労引当金(+11)
<b>負債合計</b>	<b>3,161</b>	<b>2,811</b>	<b>△349</b>	
株主資本	1,963	2,564	600	当期純利益(+601)
その他	335	424	89	その他有価証券評価差額金(+89)
<b>純資産合計</b>	<b>2,299</b>	<b>2,989</b>	<b>690</b>	
<b>負債純資産合計</b>	<b>5,460</b>	<b>5,800</b>	<b>340</b>	

## 業績予想

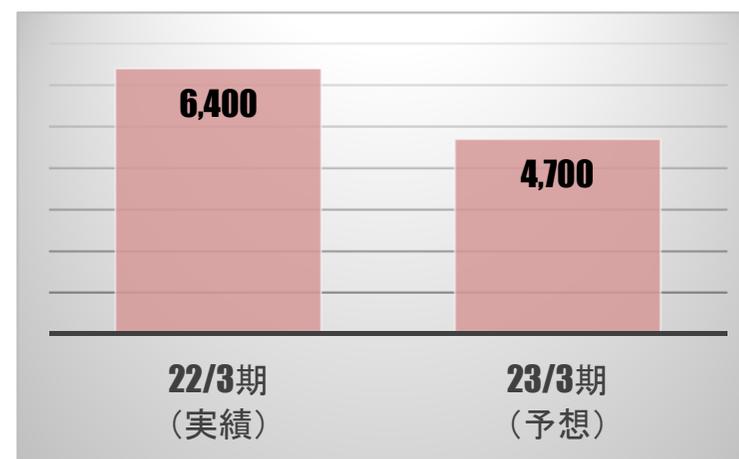
当社事業分野では、タングステン・モリブデン製品の販売は主として半導体、光通信、医療、自動車関連向けに回復から更なる伸長することを見込んでおり、また、超硬合金はトンネル工事向けの回復により販売が増加することを見込んでいる。

しかしながら、今期の大幅な増収増益の主要因である貴金属電極を中心とした焼成品の販売は海外向けの産業用電極部品の増加を見込むものの、国内向け自動車用電極部品は材料市況の高騰による販価上昇を受け、他の材料への切替が進んでいる。

当社も販売数量回復のために新しい材料による製品を開発しているが、顧客の認定を取るまでに時間を要することから、販売数量の大幅な減少を見込んでおり、減収減益の計画としている。

(単位:百万円)

	2022年 3月期実績	2023年 3月期予想	対前年実績比 増減額(増減率)
売上高	6,400	4,700	△1,700(△26.6%)
営業利益	685	110	△575(△84.0%)
経常利益	707	120	△587(△83.0%)
当期純利益	601	95	△506(△84.2%)
1株当たり 当期純利益 (円 銭)	259.59	40.98	△218.6(△84.2%)



## 💡 中期経営計画

当社は2017年4月より、  
**中期経営計画《REVIVE2026》**  
～復活東邦に向けて～  
をスタートしました！！

当社は、2013年度～2015年度当時リーマンショック以降、電球のLED化を含む業界全体のタングステン・モリブデンの消費量低下とその他既存製品の販売量減少により過去最低レベルの売上となり、非常に厳しい状況が続いておりました。

そこで「**復活東邦**」を旗印に、中期経営計画に取り組むことといたしました。

当社ホームページ『企業情報』の『経営理念』ページに、新たに『中期経営計画』欄を設け、詳細を開示しておりますので、是非ご覧ください。



 IR情報

IR情報の充実



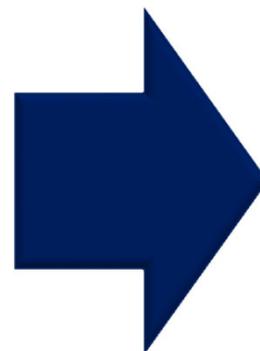
開発情報の充実



決算説明資料の開示



中期経営計画の開示

ステークホルダー向け  
情報の充実

当社は、企業価値向上のため、株主・投資家の皆さまとの信頼関係の構築を経営の最重点事項と位置づけ、積極的な情報開示を実践し、IR情報の充実を図っていきます。  
また、技術開発情報の充実も図っていくため、当社ホームページの『IR情報』および『技術開発情報』ページをリニューアルいたしましたので、是非ご覧ください。



## 本資料の取り扱いについて

本資料の取り扱いについて本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済動向及び市場環境や当社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動する可能性があります。当社は、本資料の情報の正確性あるいは完全性について、何ら表明及び保証するものではありません。